

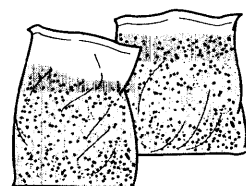
別売り部品

日立の家電品取扱店でお求めください。

■基材セット(BG-C5)

バイオ菌入り基材 2袋入り (1袋 約9L)

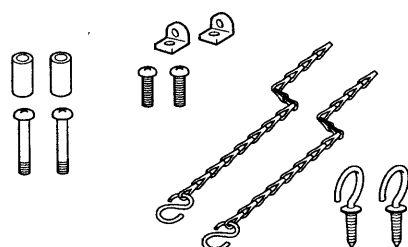
当社指定の基材以外をご使用になった場合は、生ごみ処理機の性能、品質など保証できませんのでご注意ください。



標準価格 ¥1,950(税別)

- 子供の手が届かない場所・直射日光の当たらない場所に保存してください。

■鎖(BG-K2)

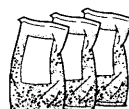


標準価格 ¥1,500(税別)

■脱臭剤(BG-S1)

活性炭・pH調整剤入り脱臭剤3袋入り (1袋 145g)

- サービスパーツとしてご用意しておりますので、もよりの販売店にご相談ください。(部品番号BGD-120010)



標準価格 ¥1,200(税別)

価格には消費税は含まれておりません。(価格は平成12年3月現在)

仕様

形名	BGD-200
電源	AC100V 50/60Hz共用
定格消費電力	最大 135W
外形寸法	幅446 × 奥行360 × 高さ621mm
質量	本体 11.5kg
最大処理量	2.0kg/1日
据付場所周囲温度	-10℃~40℃

株式会社 日立空調システム

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-23-2
電話 (03)3255-7271

株式会社 日立製作所

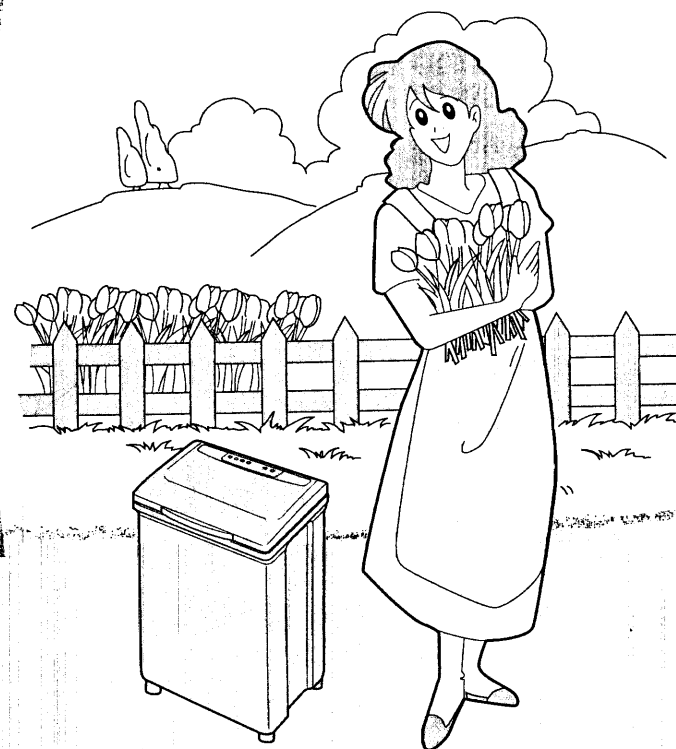
〒105-8430 東京都港区西新橋2-15-12
電話 (03)3502-2111

取扱説明書

家庭用バイオ式電気生ごみ処理機

BGD-200形

軒下設置型・屋外用



このたびは家庭用バイオ式電気生ごみ処理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

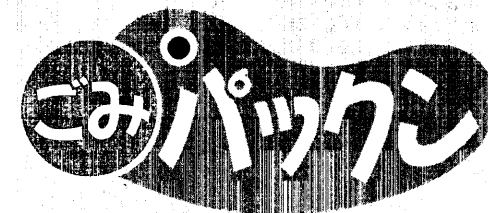
特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書・ご相談窓口一覧表とともに大切に保存してください。

安全上のご注意	2	ご使用の前に
各部のなまえ	4	
据え付けのしかた	6	
ご使用前の準備	7	
使用上のご注意	8	



投入できるもの・投入できないもの	9	使いかた
使いかた	10	
コンポストの自動取出し	12	
基材のリフレッシュ(基材の部分交換)	13	
基材のお手入れ	14	
その他 お知らせ	15	
取り出した古い基材を有機肥料として利用する方法	16	

お手入れ	17	お手入れ・アフターサービス
故障かなと思ったら	18	
保証とアフターサービス	19	
別売り部品	20	
仕様	20	















安全上のご注意






- ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。










	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

●お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

絵表示の例		△記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。
		⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解や修理・改造の禁止)が描かれています。
		●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

 警告	
 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造を行わない ●発火したり、異常動作してけがをすることがあります。	 交流100Vの防雨形コンセントを使う ●コンセントに雨水がかかると漏電の原因になります。
 ふたを開けても、かくはん棒が回転を続ける場合は、直ちに使用を中止する ●修理を依頼してください。けがの原因になります。	 コンポストの自動取出し中は絶対に取出口の中に手などを入れないでください。 ●けがの原因になります。
 ふたを開けたとき、本体の上部に磁石を近づけない ●内部のふたスイッチが動き、かくはん棒が回転を始め、けがをすることがあります。	 ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電やけがをすることがあります。
 雨水がたまり水浸しになるような場所には据え付けない ●感電や漏電による火災の恐れがあります。	 据え付けは、水平で安定したところに据え付ける ●転倒によりけがをすることがあります。

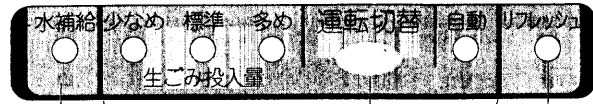
 警告	
 本体各部に直接水をかけない また、処理槽の内部は絶対に水洗いしない ●漏電・感電の原因になります。	 処理槽には、灯油、ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどやそれらが付着したごみを絶対に入れたり近づけたりしない ●爆発や火災の恐れがあります。
 幼児に処理槽の中をのぞかせない また、生ごみ処理機の近くに台を置かない ●落ちてけがをすることがあります。	 電源プラグは、刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく ●火災の原因になります。

 注意	
 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く ●感電やショートして発火することがあります。	 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない ●感電・ショート・発火の原因になります。
 電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、ひっぱったり、ねじったり、たばねたりしない また、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりしない ●電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。	 交流100V以外では使用しない ●火災・感電の原因になります。
 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。	 大きいものや硬いものなどは、小さくして投入する ●かくはん運転異常の原因になります。
 生ごみ処理機の上へのぼったり、重いものを載せたりしない ●変形・破損・転倒によりけがをすることがあります。	 基材のリフレッシュ等で基材に触ったときは必ず手を洗ってください ●生ごみを投入後の基材は土や堆肥と同じです。衛生上好ましくありません。

ご使用前の準備

各部のなまえ

運転表示パネル（処理槽側）

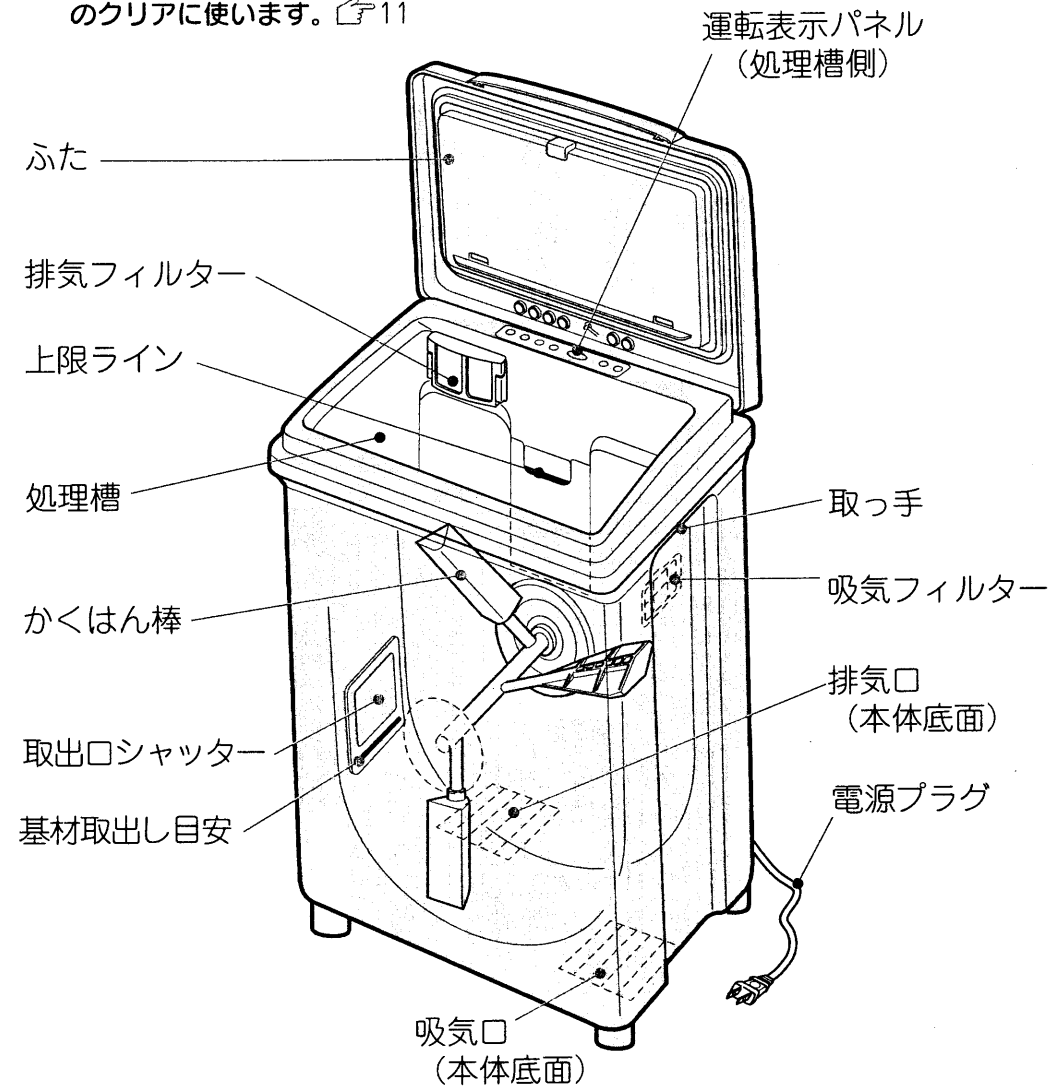


運転コースの表示を行います。☞P11

基材のリフレッシュ時期の目安を示します。☞P13

基材の水分が不足していることを示します。☞P11

生ごみ投入量に応じたコースの切り替えとリフレッシュランプのクリアに使用します。☞P11

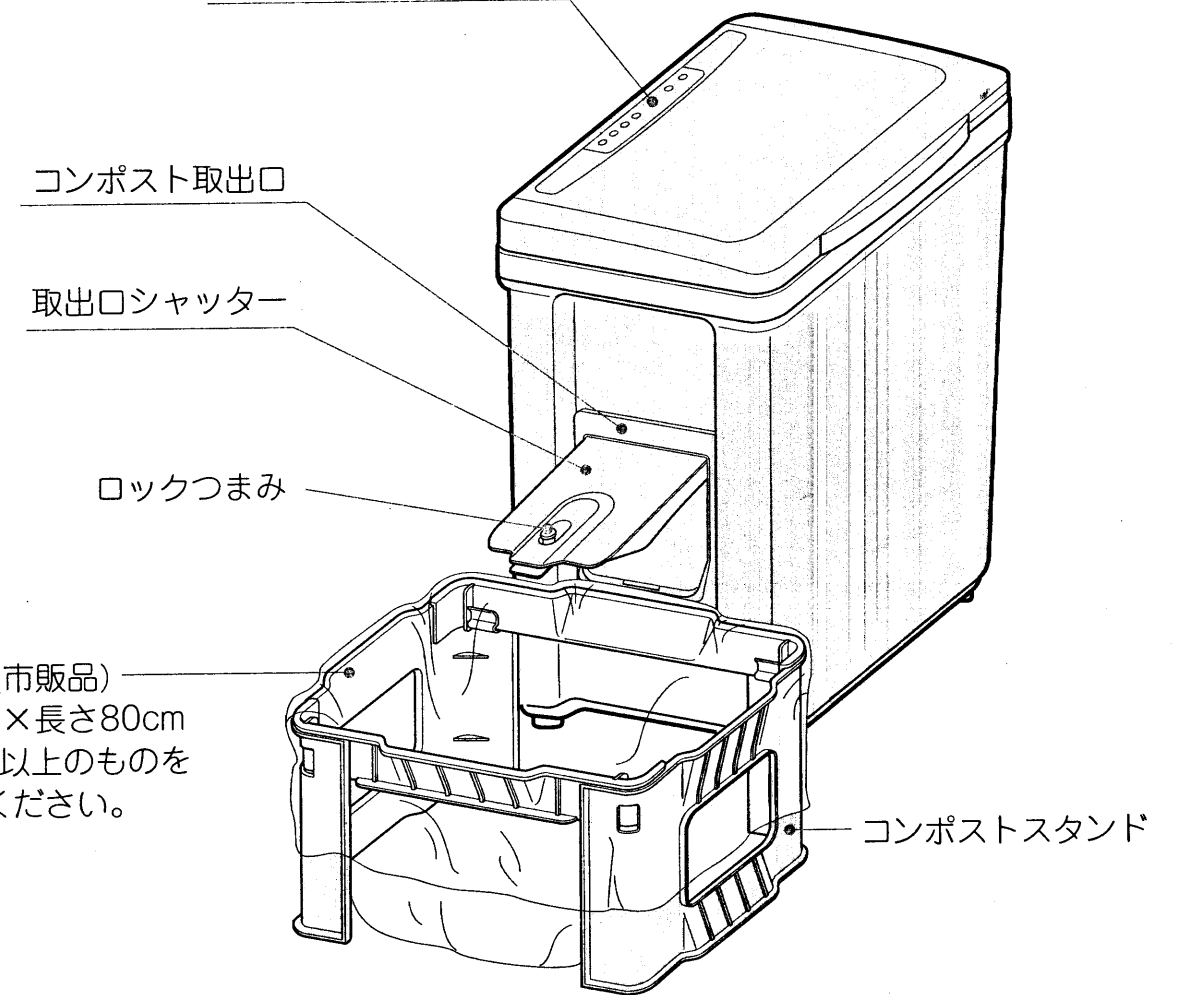


運転表示パネル（ふた側）



コンポスト(堆肥化した古い基材)を自動的に取出すときに使います。☞P12~13

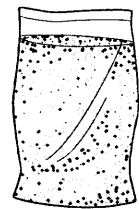
運転表示パネル（ふた側）



付属品（処理槽内に収納してあります）

- 初回投入用バイオ菌入り基材 1袋（約18L）

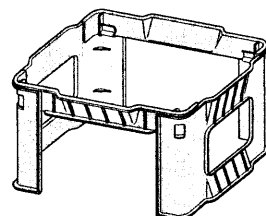
●製品の輸送中に、袋がやぶれて基材がもれる場合がありますが支障ありません。そのままP7の「ご使用前の準備」にかかってください。



- スコップ1個 計量カップを兼ねています。



- コンポストスタンド1個 組み立てて使用します。



運転内容

- ふたを開けた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、お知らせ音が鳴り「自動」ランプが点灯して通電状態となります。
- 通電状態で、ふたを閉めると、4分間のかくはん運転をおこないます。以後、このかくはん運転は自動的に30分ごとに4分間繰り返します。
- ふたを閉めた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、お知らせ音が鳴り、「自動」ランプが点灯し、かくはん運転を開始します。
- かくはん運転中にふたを開けると、かくはん運転が休止します。
- 外気温に応じて、保温ヒータが働きバイオ処理を助けます。

据え付けのしかた

据え付け場所を選ぶ

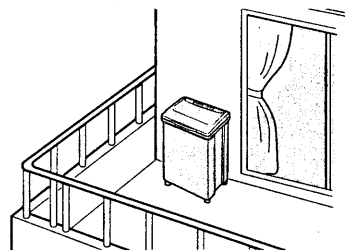
■風通しのよい屋外に設置してください。

ご注意

- 屋外でも袋小路や、壁や塀で囲まれたコーナーなど風通しの悪い場所に据え付けますとにおいがこもります。
- 室内やシャッターの付いた車庫、物置の中など閉ざされた場所に設置しますとにおいがこもります。

■ベランダに据え付ける場合は、壁側にしてください。

- 落下、転倒を防ぐためです。

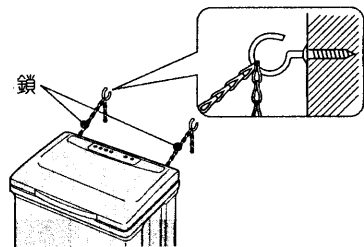


据え付ける

■安定したところに水平に据え付けてください。

■土や芝生の上に置く場合は、板やブロックなどを敷いてください。

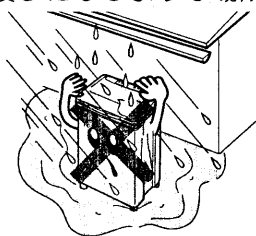
■強い風が吹きつける場所に据え付ける場合や、倒れる恐れがある場合は、鎖（2ヶ）で本体を壁に固定してください。（別売部品）



警告



雨水がたまり水浸しになるような場所には据え付けない

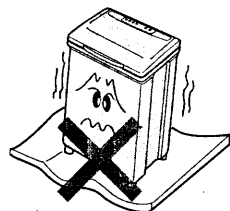


- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

警告



安定したところに水平に据え付ける



- 転倒によりけがをする恐れがあります。

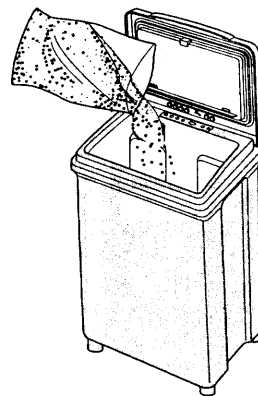
ご注意

- ポリ袋や段ボール箱などで本体をカバーしないでください。換気が阻害されてにおいの発生や、基材交換を早める原因になります。

ご使用前の準備

1 ふたを開け 基材を入れる

- ① 処理槽内に収納されている基材の入ったポリ袋(約18L入り)を取り出します。
- ② ポリ袋を開封し、中の基材を処理槽の中に全部入れます。

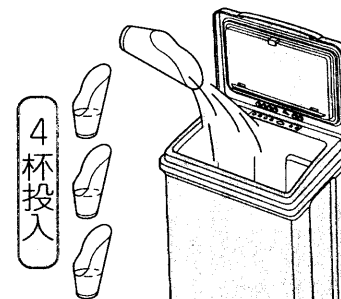


ご注意

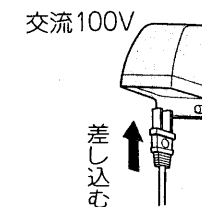
- 排気、吸気フィルターに振りかからないように入れてください。

2 水を約1L入れる

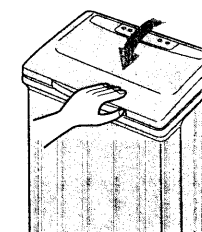
- ① 付属のスコップで水をくみ、4杯入れます。適当な湿気を与えるためです。



3 プラグを差し込み ふたを閉める



- 通電状態であることを示す「自動」ランプが点灯します。



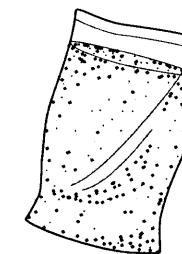
- ふたを閉めると自動的にかくはん運転がはじまります。

ご注意

- バイオ処理維持のため、電源プラグはコンセントに差し込んだままで常に運転しておいてください。旅行などでご使用にならない場合も、電源を入れたままで結構です。留守対応機能が働き、自動的に最小限の維持運転に切り替ります。

■基材について

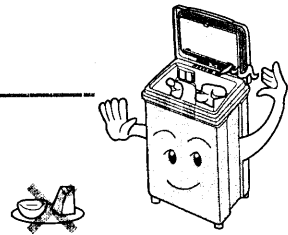
- 乾燥したおがくずをベースに活性炭などを加えて加工したもので、微生物の育成に必要な「水分」「空気」「温度」などを適切に保つ微生物の住家です。また、バイオ処理で生じるにおいの元になるガス成分を吸着します。
- 出荷時に、基材の中に生ごみを分解するバイオ菌を予め混ぜてありますので、使用開始から分解処理がおこなわれます。
- 開封時に、黒い粒がよく混ざり合わず片寄っている場合がありますが、異常ではありません。そのままお使いください。



使用上のご注意

1 分別して入れる

■投入できるものと、投入できないものがありますので、あらかじめ必ず分別してください。👉9



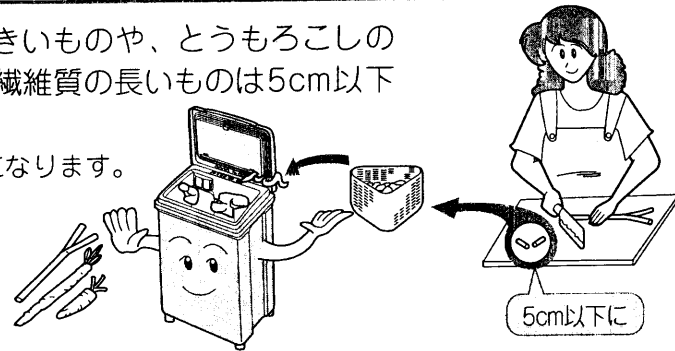
2 硬くて大きいものや長いものは小さくする

■ごぼう、とうもろこしのしんなど硬くて大きいものや、とうもろこしの皮、たけのこの皮、長ねぎの白根など丈夫な繊維質の長いものは5cm以下に小さくしてください。

●かくはん棒の回転を妨げてかくはん異常の原因になります。

■おにぎりのようなだんご状のものは、ほぐして入れてください。

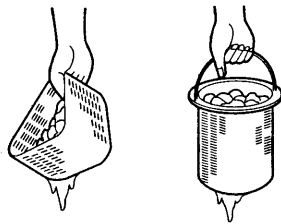
●においが強くなる原因になります。



3 水切りをおこなう

■生ごみを投入するときは、水切りをしてください。

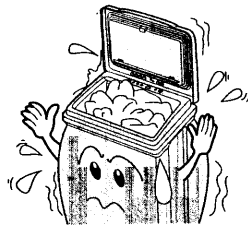
●基材の水分が多くなると、微生物が住みにくくなるので、においが強くなる原因になります。
また、基材が固まりやすく基材交換時期を早める原因になります。



4 入れ過ぎない〔1日最大2.0kg(約4.0L)〕

■1日に投入できる生ごみの量は、2.0kg以下です。

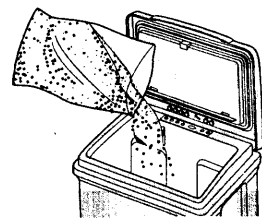
●生ごみ用三角コーナーに約2杯強を目安にしてください。
●毎日連続して2.0kgを超えて投入すると処理が遅くなり、においが強くなる原因になります。
●1日に2.0kg以内であれば、2~3回に分けて投入してもかまいません。



5 基材のリフレッシュ(基材の部分交換)はお早めに

■基材は長期間使用すると土状に変化し水分調整、空気補給、ガス吸着などの働きが低下して微生物が住みにくくなりますので、基材のリフレッシュ(基材の部分交換)をしてください。👉13

基材のリフレッシュ時期は、環境条件や生ごみの種類・量により異なりますが、標準的な生ごみを処理した場合1日2.0kgの処理で約1~2ヶ月、1日0.5kgの処理で約8~10ヶ月ほどが目安です。



投入できるもの・投入できないもの

投入できるもの

●野菜くず



●魚の皮や骨



●鶏の骨・卵やカニ・えびの殻



●ごはん・めん類



●肉類



●茶がら



●果物やとうもろこしの皮やしん



■ミカン類の皮、豆類の皮などは分解しにくいので処理時間が長くなります。

●その他、一般的に人間が食べられるもの

■牛乳、ジュース、しょうゆ、ドレッシング、味噌汁などは少量ならかまいません。

●注意

鶏の骨、卵やカニ・えびの殻など硬い殻などは分解しないため連続して大量に入れますと、処理槽を傷つける場合がありますのでご注意ください。

投入できないもの

食品以外のもの(人間が食べられないもの)

●貝殻 ●牛や豚などの大きな骨 ●桃・梅干しなどの硬い種子

食品以外のもの(人間が食べられないもの)

●紙類 ……ティーバッグ、紙コップなど
●プラスチック類 ……プラスチック・発泡スチロールの容器、びんの栓、スプーン、フォーク、ひも、ポリ袋、輪ゴムなど
●金属類 ……ナイフ、フォーク、スプーン、缶、缶のプルリング、びんの栓、アルミホイル、金属たわし、乾電池など
●繊維類 ……髪の毛、化学繊維、ふきんなど
●木片類 ……折箱、割りばし、つまようじ、串など
●陶器類 ……陶器、磁器、ガラス、石類など

微生物の生育を妨げるもの

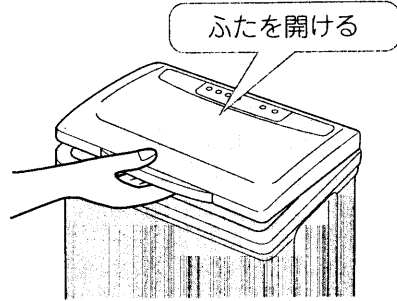
●薬品類 ……洗剤、漂白剤、石けん、歯磨き粉、化粧品、整髪料、シャンプー、リンス、化学製品、医薬品など
●たばこ ……たばこ、たばこの灰
●液体のもの ……ガソリン、灯油、ベンジンなど

投入に注意するもの

●においの強いもの(魚のアラなど)は、一度に多く入れないでください。
魚のアラは、1日300g以下が目安です。

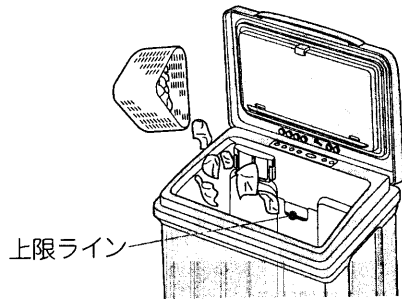
使いかた

1 ふたを開ける



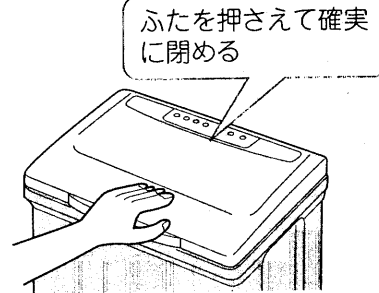
- ふたを開けるとき、無理な力を加えると外れるようになっていきます。外れたときは、もと通りにセットしてください。☞15

2 生ごみを投入する



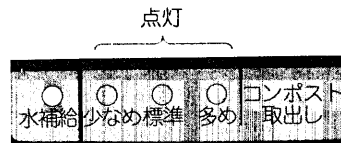
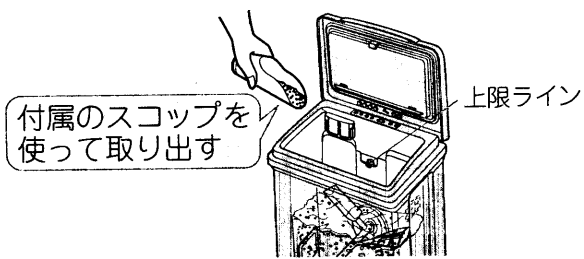
- 基材が上限ライン付近まで増えてきた場合は、スコップで取り出して基材量の調節をしてください。(下記のご注意参照)

3 ふたを閉めて運転する



- ふたが確実に閉まっていないと運転をおこないません。
- また、「少なめ」「標準」「多め」のランプが同時に3つ点灯しているときは運転できません。(下記のご注意参照)

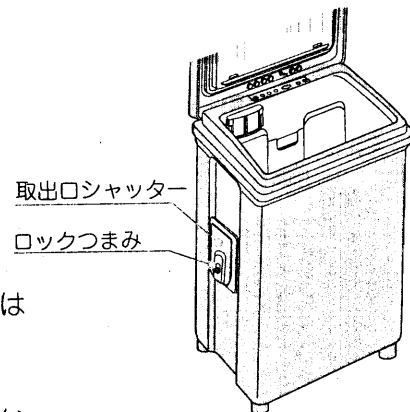
- 使いはじめて1週間前後、においが強くなる場合がありますが、そのままご使用ください。基材の発酵臭ですので次第におさまります。
- 使用中に基材が増えてくる場合があります。上限ラインを超えないようにスコップで取り出し調節してください。



- 「少なめ」「標準」「多め」のランプが3つ同時に点灯しているときは、運転できません。

左側面の取出口シャッターが正しくロックされていないことを示しております。ロックつまみを押し下げて正しくロックし3つのランプを消してからご使用ください。

- 生ごみが処理槽の内壁にこすれたり、ぶつかったりして「キュー」または「ゴトン」という音がでることがありますが、異常ではありません。
- 虫を駆除する場合は、ピレスロイド系のスプレー殺虫剤をご使用ください。



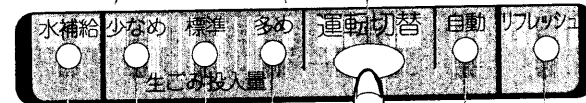
■ 運転コースの使いかた

通常は「自動」コースをご使用ください。生ごみの投入量と基材の状態に合わせて基材を常に最良の状態に保つように自動運転します。

ただし、生ごみの種類や量、水切りの状態によって、基材の水分が著しく多くなったり、パサパサに乾燥するなど基材状態が悪くなる場合がありますので、マニュアル操作の運転コースも選べるようにしています。

同時に点灯しているときは、運転できません。取出口シャッターを正しくロックしてください。ロックすると消灯します。

コースの選択は **運転切替** ボタンで行います。
運転切替 ボタンを1回押すことに、「少なめ」→「標準」→「多め」→「自動」と切り替ります。



「リフレッシュ」…使用中はこのランプが点灯、点滅していないかチェックし、基材の交換時期かどうかを確認してください。☞13

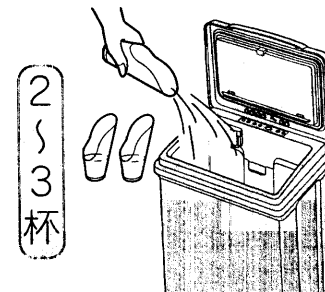
「自動」…生ごみの投入量と基材の状態に合わせて自動運転します。通常はこのコースを使用します。

「多め」…一度に大量の生ごみを投入する場合や「リフレッシュ」ランプが点灯する前の早い時期に、基材の水分と粘り、固まりが多くなって「リフレッシュ」が必要になる場合などに使用します。一日の投入量は1.2~2.0kgが目安です。

「標準」…日々の投入量が1.0kg前後で、あまり変動しない場合に使います。一日の投入量の範囲は0.5~1.2kgが目安です。

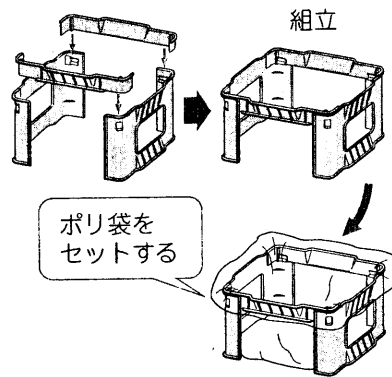
「少なめ」…日々の投入量が0.5kg以下であり変動しない場合や水分を補給しても、繰り返し「水補給」ランプが点滅する場合など、基材がパサパサに乾燥する場合に使用します。一回の投入量は0.5kg以下です。

「水補給」…基材の水分が不足していることを示します。点滅したときは、下図のように水分を補給してください。ふたを開閉すると、ランプが消えます。



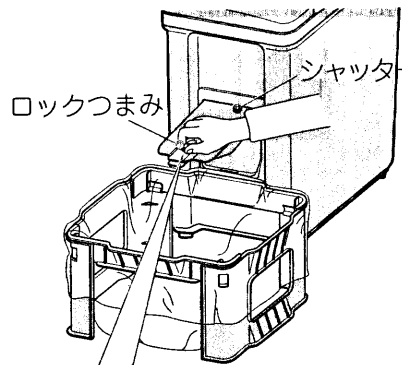
コンポストの自動取出し

1 コンポストスタンドを組み立て、ポリ袋をセット



- ポリ袋は市販の巾65cm×長さ80cm(45L用)以上のもをご使用ください。

2 取出口のシャッターを開く

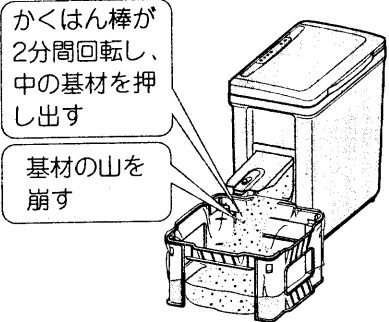


ロックつまみを引上げてロックを外し、シャッターが止まる位置まで開く

- シャッターのロックが外れると、表示パネルの「少なめ」「標準」「多め」の3つのランプが同時に点灯します。

3 コンポスト取出しボタンを押す

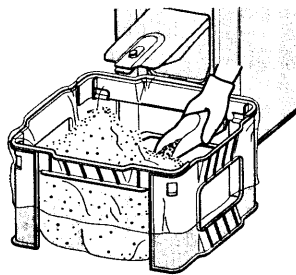
ふたを開めコンポスト取出しボタンを押す



- 2分間のかくはん棒の回転中は、3つのランプが同時に点滅します。
- 2分後かくはん棒が停止するときブザーが8回鳴ります。

■自動取出し中に、取出口につもった基材の山をスコップで崩してください。

山につかえて基材がスムーズに排出できません。また、ポリ袋から溢れて、床にこぼれる原因になります。



■自動取出しを途中で止めたいときは

- (1)ふたを開けます。閉じると残りの時間だけ運転します。
- (2)コンポスト取出しボタンを押します。ピッとブザーが鳴って止まります。再び押しすとピッとブザーが鳴って残りの時間だけ運転します。

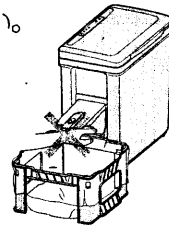
■古い基材は処理槽内の「基材取出し目安」まで取出します。

- 基材取出し目安まで1回の運転で、取出し切れない場合は、もう一度、取出し運転を繰り返すが、付属のスコップで取出してください。
- 逆に取出し過ぎた場合はスコップで処理槽内に戻してください。

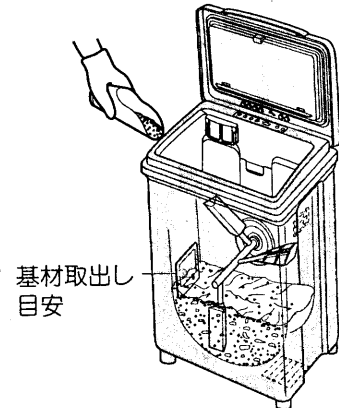
●基材の状態が水分過剰でベトベトしていたり、処理槽の内側に基材が固まり壁ができている場合など、基材の状態によっては自動取出し出来ない場合があります。このときは、付属のスコップを利用して取出してください。

警告

！コンポストの自動取出し中は絶対に取出口の中に手などを入れないでください。



- けがの原因になります。

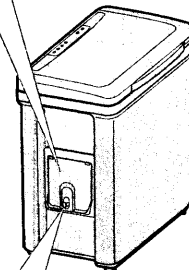


基材取出し目安

リフレッシュ(基材の部分交換)

4 シャッターを閉じロックする

シャッターをしっかりと閉める

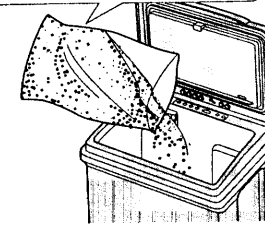


ロックつまみを押し下げてロックする
ロックすると3つのランプが消える

- シャッターを正しくロックしないと運転できないばかりか、基材がもれて、床を汚す原因になります。

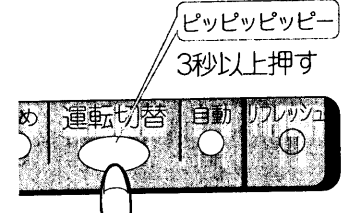
5 新しい基材を追加する

リフレッシュ用基材1袋(約9L)追加



- 3つのランプが消えているか、確かめてから投入してください。点灯しているときは、取出口シャッターが正しくロックされていないことを示します。

6 リフレッシュランプをクリアする

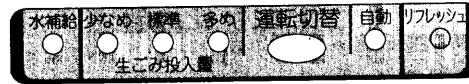


- 運転切替ボタンを3秒以上押し続けてください。(ピッピッピッピーとブザーが鳴り、リフレッシュランプが消えます。)

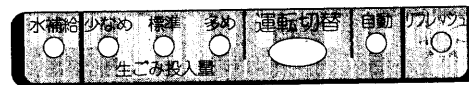
- 取出口シャッターのロックを忘れて放置しますと、5分後から警報ブザーが約1時間鳴りつづけます。このときは、速やかにシャッターのロックを行ってください。

「リフレッシュ」ランプの使いかた

リフレッシュランプは、基材のリフレッシュ時期の目安をお知らせするランプです。



ランプが点灯したら
基材のリフレッシュ時期が近づいています。基材の状態を確認し、右の基材状態になったらリフレッシュを行ってください。



ランプが点滅したら
基材のリフレッシュ時期です。基材のリフレッシュを行ってください。

基材の状態

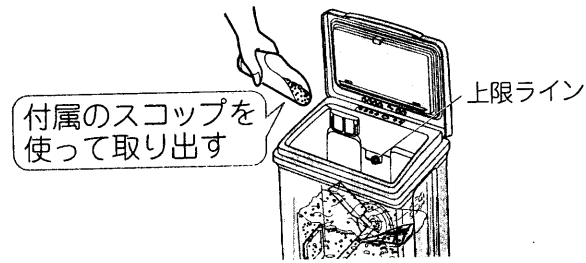
1. 粒状の固まりができる。
2. 未処理の生ごみが目立つ。
3. 粘り気が多くなる。
4. においが強くなる。

- リフレッシュランプは、あくまで、基材のリフレッシュ時期の目安をお知らせするものです。リフレッシュが必要かどうかは基材状態をチェックして判断してください。
- 基材のリフレッシュをおこなってから数日経ても基材の状態がよくなる場合は、もう一度リフレッシュをおこなってください。それでも基材の状態がよくなる場合は、基材全体を交換してください。この場合、コンポスト自動取出しでは全部は取り切れませんので、残りは付属のスコップを利用して取り出してください。

基材のお手入れ

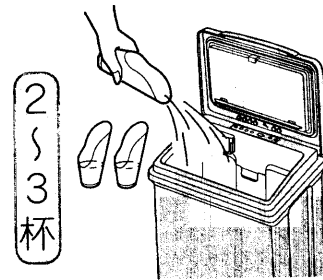
■基材量の調節

バイオ処理の過程で、基材の容積が増える場合があります。上限ラインを越えないようにスコップで取り出してください。



■基材の水分調節（「水補給」ランプが点滅したとき）

毎日の投入量が極端に少ない場合や、数日間生ごみの投入をおこなわなかった場合、排気フィルターが目詰まりするくらいに基材がパサパサに乾燥する場合があります。このときは、排気フィルターが目詰まりを取るとともに、水をスコップで2〜3杯均一に入れてください。☞11



■使用中の基材の変化とリフレッシュの必要性

基材は使用時間とともに、土状に変化し水分調整、空気補給、ガス吸着などの働きが低下して微生物が住みにくくなります。このため環境条件や生ごみの種類・量によって時期は異なりますが、右記のような状態に変化します。

- 基材のリフレッシュ時期は、環境条件や生ごみの種類、量によって異なりますが、標準的な生ごみを処理した場合1日2.0kgの処理で約1〜2ヶ月、1日0.5kgの処理で約8〜10ヶ月が目安です。

基材の状態変化

1. 粒状の固まりができる。
2. 未処理の生ごみが目立つ。
3. 粘り気が多くなる。
4. においが強くなる。

■古い基材の取り出し作業について

基材が固まっている場合は、スコップや棒状の用具などを利用し、取り出してください。作業はケガ防止のため手袋をご使用ください。また、基材は土や堆肥と同じですので、衛生上必ず手を洗ってください。

■基材の全量交換法

基材交換が遅れて、著しく悪い状態になってしまうと、基材のリフレッシュでは復旧できなくなってしまいます。このときは古い基材を全部取り出し、別売り基材2袋（約9L入り袋2個）を投入して、P7「ご使用前の準備」と同一の作業をしてください。作業がしづらいときはふたを外して作業をすることもできます。☞15

取り出した基材の処置方法について

■有機肥料として再利用する場合

未分解の生ごみが基材に残っている状態で植物に与えますと、土壌中で植物に有害なガスの発生、植物必須成分である窒素の欠乏、植物に有害な病原菌の増殖などで、植物の発芽や生育が阻害される場合がありますので、P16を参照して、正しくご利用ください。☞16

■有機肥料として利用しない場合

可燃ごみとして廃棄処分してください。

その他 お知らせ

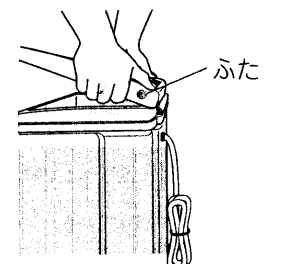
留守対応機能について

- 3日以上ふたを開閉しない場合は、自動的に留守対応機能が働き、保温ヒータとかくはん運転を停止します。外気温が0℃未満のときは、6日以上となります。（そのとき運転コースを示すランプは点灯したままで換気ファンのみ回っています。）
- ふたを開閉することにより、通常の運転に戻ります。
- 再び使用を開始する場合は、通常通り生ごみを投入してください。

ふたの脱着のしかた

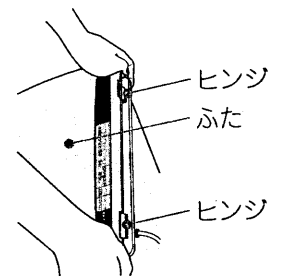
■ふたの外しかた

右図のようにふたの後部両脇に手をかけ、片側ずつ静かに持ち上げるとふたが外れます。



■外したふたのセットのしかた

処理槽の上面にふたを閉めた状態になるように置き、背面のヒンジが見えるようにしてください。そして、右図のように片側ずつ静かにパチッと音がしてヒンジがはまるまで上から押しつけます。そのあと、ふたが正常に開閉することを確認してください。



ランプが点滅したときは

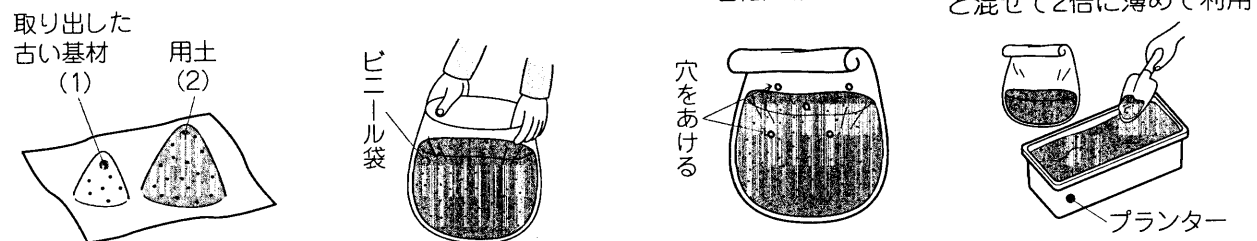
運転表示パネル	処置のしかた
「水補給」ランプが点滅 	基材の水分不足です ← 水分を補給してください。☞14
「多め」ランプが点滅 	かくはん異常です ← 異物などの原因を取り除いてください。
「少なめ」「標準」の2つのランプが点滅 	保温ヒータ異常です ← 使用を中止して修理を依頼してください。
「少なめ」「多め」の2つのランプが点滅 	水分センサー異常です ← 使用を中止して修理を依頼してください。

取り出した古い基材を有機肥料として利用する方法

有機肥料として再利用する場合は次のようにしてください。

1 土と混ぜて利用する場合

取り出した古い基材と用土（黒土や赤土）を、おおよそ1：2の割合で混ぜ合わせて、乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いて、おおよそ20～30日のあいだ、寝かせてください。

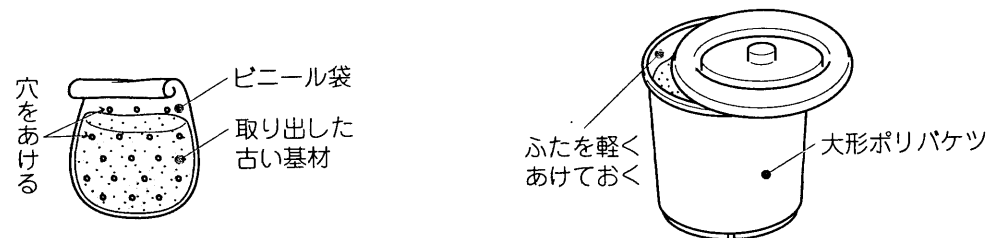


2 土と混ぜないで単独で利用する場合

厚めのポリ袋に入れ、空気が出入りできるように割りばしなどで数か所に小穴をあけて、乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いてください。約20～30日経過すると、2次発酵が進んでにおいが少なくなり、植物にやさしい有機肥料になります。

植物に与えるときは、土に対して有機肥料が重量比で10～20%の割合になるように、混ぜ合わせてご利用ください。

■大きめのポリバケツに入れ、空気が出入りできるようにふたを軽く開けた状態で、放置する方法もあります。このときも乾燥を防ぐために日陰で風通しのよい場所で、雨水のかかりにくい軒下などに置いてください。



3 約1.5ヶ月以上使用した基材を交換した場合の利用

この場合は、処理槽内で生ごみの発酵分解が進んでおりますので、放置する時間は約10日前後の短い時間で、植物に与えても問題ありません。

注意

古い基材の大きい固まりは砕いてください。固まりを砕いたとき、中から野菜のブロックなど未処理の生ごみがでてきたときは、生ごみ処理機に再投入して処理をしてください。

土と混ぜないで単独で保存する場合には、固まりを砕く作業は特に重要です。固まりはそのまま乾いてしまい、堆肥として利用しにくくなります。

4 直接庭などに埋める場合

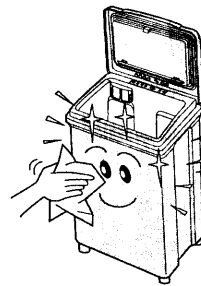
植物の根付近を避けて埋めてください。根ぐされなどで植物が枯れるおそれがあります。



お手入れ

本体のお手入れ

■本体の汚れは、水または中性洗剤を含ませた柔らかい布でふき取ってください。



注意

- 乾いた布やブラシ、たわしなどでこすったり、クレンザー、ワックスなどで磨いたりしないでください。光沢をなくし、変色する原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

フィルターのお手入れ

■フィルターが粉状のほこりや基材で目詰まりしているときは、下記のように掃除をおこなってください。

- フィルターが目詰まりすると、湿気やガス成分の排気能力が低下し、においが強くなる原因になります。

排気フィルター

①排気フィルターを矢印のように上にスライドさせて取り外してください。

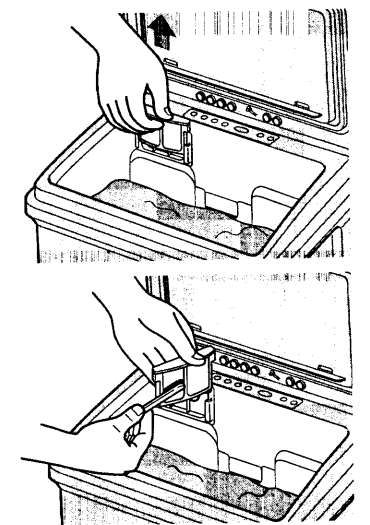
②排気フィルターを掃除します。

- 古い歯ブラシなどで落とすか、汚れのひどいときは、水洗いをします。

③元通りにセットします。

吸気フィルター

①本体に取り付けたまま古い歯ブラシなどで落としてください。



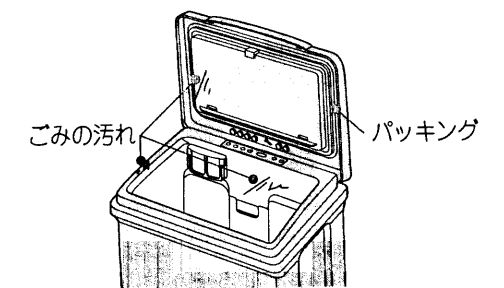
注意

- 金属などの硬いブラシは、フィルターを傷めますので使用しないでください。
- 毎日の生ごみ投入量が少ない場合、処理槽内の基材が乾燥しすぎて微粉が舞う場合があります。この場合は、水分を与えてください。☞P.14

投入口付近のお手入れ

■ふたのパッキング面や投入口の付近についたごみや汚れをふき取ります。

- 雨水の侵入防止や虫が寄りつかないようにするためです。



警告



処理槽の中に手を入れるときは、必ず電源プラグを抜く。また、ぬれた手で抜き差ししない。

- 感電やけがをすることがあります。



本体各部に直接水をかけない。また、処理槽の内部は絶対に水洗いしない。

- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に 次の点をもう一度お調べください

症状	調べるところ	直しかた
電源プラグをコンセントに差し込んでもかくはん運転しない	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグはきちんと差し込まれていますか。 ふたはきちんと閉まっていますか。 取出口シャッターはロックしていますか。 (「少なめ」「標準」「多め」の3つのランプが点灯していませんか。)	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをしっかりと差し込みます。 ふたをきちんと閉めます。 取出口シャッターのロックをしてください。正しくロックすると、3つのランプが消えます。
「多め」ランプが点滅している	<ul style="list-style-type: none"> ふたを開けるとブザーがなりませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> ブザーが鳴っているときは、保護装置が働いています。☞15
「水補給」ランプが点滅している	<ul style="list-style-type: none"> 基材の水分が不足していませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 水分を補給してください。☞14
音が出る	<ul style="list-style-type: none"> 処理槽内に大きな生ごみや硬い生ごみが入っていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り除いてください。 「ブーン」という音は、モーターや本体の底にある換気ファンの音で異常ではありません。 生ごみを入れると処理槽の内壁にこすれて音が出るがありますが異常ではありません。
においが強い	<ul style="list-style-type: none"> 使い始めて1週間前後くらいですか。 生ごみの投入が最大処理量を超えていませんか。 生ごみが投入口に付着していませんか。 ごはん、魚、肉などの割合が多すぎませんか。 基材の交換時期ではありませんか。 風通しの悪い場所に据え付けていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> バイオ処理が活発になると、においはおさまりますのでそのままご使用ください。 生ごみの投入を2~3日やめてください。 生ごみを取り除き、汁などをきれいにふき取ってください。 でんぷん、たんぱく質に片寄るとにおいが強くなる場合がありますので避けてください。 基材を交換してください。 風通しのよい場所に据え付けてください。
ふたを開けると、湯気が出たり、ふたの裏側に水滴が付着している	<ul style="list-style-type: none"> フィルターが目詰りしていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> フィルターのお手入れをしてください。☞17 処理槽より湯気が出るのは、微生物の活動が活発なときに発生する分解熱によるもので、故障ではありません。
運転切替ボタンを押しても「リフレッシュ」ランプが消えない	<ul style="list-style-type: none"> 押している時間が短すぎませんか。 「多め」ランプが点滅していませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 3秒以上押してください。☞13 (ピピピピッピーとブザーが鳴ります。) 保護装置が働いているので、原因を取り除いてから、運転切替ボタンを押してください。☞15

●上記以外の異常がある場合は、使用を中止して修理を依頼してください。

保証とアフターサービス(必ずお読みください)

保証書(別添)

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのおと、大切に保存してください。

保証期間
お買い上げ日から1年です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この生ごみ処理機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低6年間保有しています。補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または別紙(黄色用紙)「ご相談窓口一覧表」の窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

18ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容


品名	家庭用バイオ式電気生ごみ処理機
形式	BGD-200
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修理料金のしくみ

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

愛情点検

★長年ご使用の生ごみ処理機の点検を



ご使用の際、このような症状はありませんか？

- 電源プラグをコンセントに入れても時々運転しないことがある。
- コードを折り曲げると、通電したり、しなかったりする。
- 運転中、異常な音がする。
- 本体ケースが変形していたり、異常に熱い。
- 焦げた「におい」がする。
- 本体に触るとビリビリ電気を感ずる。
- その他、異常・故障があるとき。

ご使用中

このような症状のときは、故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

お入れ・アフターサービス